

【 2025 年度 施設関係者評価 】

目的：聖隸こども園・保育園との連携の中で、互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

評価日・評価者

評価日	2025 年 10 月 29 日
評価者	聖隸こども園こうのとり豊田 園長
評価者	聖隸浜松病院ひばり保育園 園長

【保育・教育理念】

保育理念・方針が、日常の保育・教育に反映されているか。

コメント

広々とした園庭では異年齢児が自然と関わって遊び、職員が互いに子どもを見合う（連携し合う）雰囲気が感じ取れた。子どもが主体的に遊ぶための環境構成も整えられ、遊びの内容によっては職員も手加減することなく、一緒になって遊び込む場面が印象的であった。

また、保育記録から読み取ることができる「ヒヤリハット」の多さ、視点の幅広さからは、園児の安全・安心が十分に保障されていることが感じられた。より沢山のヒヤリハットを集めることは重大事故の防止にも繋がると言われている。遊びや生活の中での子どもたちの言動に細かに目を向け、自らの課題（問題）を見出す視点は素晴らしい。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

コメント

1歳児の記録から読み取ることができた、「1人で歩きたい子」の思いが叶えられること、2歳児クラスが当日、「行きたい」と言った3歳児も交えて散歩に出掛けたこと、5歳児が給食の苦手なメニューを、自分で量を加減して皿に盛るところを温かな眼差しで見守ること等、子どもたちの思いが受け止められる場面が多々見られ、それは子どもの人権尊重に繋がっていると感じた。3歳児が、捕まえたカエルの入ったバケツを手に、大興奮で部屋に帰ってきて、協力し合い飼育ケースに入れる場面も良かった。一方で、子どもの着替えの場所については僅かな配慮で改善ができるかと感じた。子どもの前の配膳方法も、職員の連携や保育環境の整備により見直しが図されることを期待したい。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

コメント

個人情報の使用については、入園時に保護者の同意を得ている。
整頓された事務所内で適切に管理されていた。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

コメント

保護者からのご意見については、園内で共有し、対応している。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

コメント

保護者への情報提供は、ICT システムのコドモンを活用して配信し、早めの受診を促している。

保健・衛生マニュアルの作成、運用をし、入園時には丁寧に説明をしている。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

コメント

消防計画を定め、それに沿って訓練・対策等がなされている。

また前述の通り、1週間単位の会議・記録でその都度「ヒヤリハット」が集められている。職員の危険予測の力が育っていくと感じた。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

コメント

施設・設備の管理は、法人本部の設備担当者と相談しながら進めているとのこと。

園庭は十分な広さが確保され、目的に応じて使い分けができることで、子どもの身体発達の保障も叶えられると感じた。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

コメント

園内外共に環境整備は行き届いている。園庭遊びの最後には玩具の片付けも丁寧にされている印象を受けた。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

コメント

各クラス、子どもたちの手の届く場所に玩具を整え、3～5歳児に於いては、子どもたちが思い思いに遊ぶ時間的保障も叶えられていた。(主に食事前の時間)

気候的にもとても気持ちの良い日で、戸外遊びを十分に楽しんでいたため、2歳児以下のクラスについては室内での遊びの様子はあまり見られなかったが、戸外についても様々な遊びが繰り広げられ、そこでは異年齢でも自然と関わり合う場面があった。秋の穏やかな気候の中で、のびのびと遊ぶ時間の必要性も再確認した。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

コメント

全体的な計画、年間計画をもとに立てられる短期指導計画が、子どもの立場にたった計画、振り返り、そして次への計画になっていると感じられる記録を多々目にした。些細な子どもの言動でも保育者が丁寧に受け止め、個々の育ちを認めて支援していく園の雰囲気を感じ取ることができた。

実際の保育・教育の中では、低年齢児でも食具の使い方やマナーが身についていることに感心したり、子ども自らが考え、豊かに表現している製作物に魅力を感じたりと「目標」が明確で、共有できていることが感じられた。

【全体を通して】

コメント

連携がとれた園長、教頭、主幹保育教諭を中心に、各クラスにも園での経験を積んできた中堅層の職員が配置され、園の保育・教育が確立されていることが感じられた。リーダー核となる職員が多いのは、働きやすい環境が整っているからであろうと推測する。

園を訪問したのが、外遊びが心地よい秋の1日であったこともあり、用途を使い分け、様々な遊びを展開できる十分な広さの園庭と、園周辺の散歩のための環境は、羨ましく思うほどであった。保育者がその環境を最大限に活かし、子どもの育ちの支援をしていることも伝わってきた。

質の高い保育を目指す取り組みを継続しつつ、今年度は運動会の変革を試みたり、アドバイザーを交えての学びを重ねたりと研鑽の様子も垣間見えた。色々な思いを職員間で交わし合いながら、今後もより良い保育を目指して取り組まれることを期待したい。